こころに残る景観資源【みち景観（第２回)】の指定一覧

目　　次

指定物件１	No.5	岸和田港を臨むみち	Ｐ１
指定物件２	No.7	久米田寺へ続くみち	Ｐ２
指定物件３	No.12	バラの小道（蜻蛉池公園）	Ｐ３
指定物件４	No.13	メタセコイヤの小道（蜻蛉池公園）	Ｐ４
指定物件５	No.14＆28＆47	久米田池遊歩道	Ｐ５
指定物件６	No.16	春木川遊歩道（兵主神社横）	Ｐ６
指定物件７	No.19	阿間河滝の阿弥陀寺への参道	Ｐ７
指定物件８	No.21	南町のみち（紀州街道）	Ｐ８
指定物件９	No.29	流木墓園桜並木みち	Ｐ９
指定物件 10	No.39	牛滝街道（積川町）	P10
指定物件 11	No.41	福田町のまちなみ	P11
指定物件 12	No.50	牛滝いよやかの郷散策道	P12

みち景観（第２回）No.5

指定物件１	岸和田港を臨むみち

応募者によるこころに残るエピソード

■「海」を手軽に感じることができる「みち」だと思います。私にとっては小学生のころまで遊んだ懐かしく思い出深い場所でもあります。
大工町辺りの砂浜で遊んだあと、波の音を聞きながらこの岸和田港まで歩きました。今では砂浜がなくなり、港の構築物なども大きく様変わりしましたが、ここが海の匂いを間近に体感できる場であることに変わりはありません。
また、整備された遊歩道も美しく、ここから眺める夕日は必見です。岸和田港は岸和田市のシンボル・遺産として、これからも永く歴史を重ねていってほしいです。

（６４歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■ 江戸時代には、既に海運で栄えたとの記録が残る岸和田港も、岸和田旧港再開発、阪神高速湾岸線事業によって、現在では様相を新たにしているが、この海沿いの道にはガス燈を模した街路灯や岸和田港が栄えた時代を象徴する「錨のモニュメント」、 そして、今も係留された舟を間近で見ることができ、エピソードにあるように潮の香りが漂うなか、この辺りをそぞろ歩きしながら眺める夕日もとても美しく、海辺のこころに残る景観が広がっている。

みち景観（第２回）No.7

指定物件２	久米田寺へ続くみち

応募者によるこころに残るエピソード

■ 久米田寺には子供の頃から何度もお参りさせてもらっていますが、いつも山門や駐車場から（つまり久米田池側から）境内に入っていました。
　そのため、このような趣のある「みち」が池の反対側にあったことを最近までは、まったく知りませんでした。
　趣味のクラブの先輩にこの道を教えてもらいましたが、清楚で、ちょっとミステリアスな雰囲気がとても印象的で、すぐに私のお気に入りの場所となりました。
　また、狭い道なので、知らない人同士でもすれ違う際には声を掛け合っていることも、私が気に入っている理由です。　　（６４歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■ 光明塚古墳（市史跡）の脇を通り過ぎたところから久米田寺へと誘う路地は、ゆるやかにカーブを描きながら数十メートル続く。その両側は瓦葺の白い塀が流れるように連なり、塀越しには久米田寺の黒い雄大な大屋根が現れる。
　静寂と和風情緒に包まれ、文化財の集積する本エリアにあって、不思議で趣のある景観が演出されている。

みち景観（第２回）No.12

指定物件３　　バラの小道（蜻蛉池公園）
応募者によるこころに残るエピソード ■ 蜻蛉池公園は　岸和田市に３８年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れていますが、やはりバラの咲く時期が最も華やかで印象的です。 その内でも　アーチをくぐって階段状に続く小道はいつ訪れても心に残ります。 （７１歳/男性）
岸和田市景観審議会における講評 ■ 本市の花である「バラ」が約 200 品種、2300 株が植えられた「蜻蛉池公園のバラ園」は、地域のシンボルにもなり、特に春・秋シーズンには、多くの人々が訪れる。 現地調査では、バラの香りが漂うなか、バラのアーチをくぐると、道沿いにバラを配した先の池岸には、ガセボ（西洋風あずまや）があり、そして、白鳥の泳ぐ大池の風景が広がっていた。 エピソードにありますように応募者にとっての、こころに残る景観資源であると同時に地域の人々にとっても貴重な景観資源と言える。

みち景観（第２回）No.13

指定物件４　　メタセコイヤの小道（蜻蛉池公園）
応募者によるこころに残るエピソード ■　蜻蛉（とんぼ）池公園は、岸和田市に３８年前に引っ越して以来、バラ公園の時代から毎年何回も訪れています。 　やはりバラの咲くころは華やかですが、もうひとつ心に残るのはメタセコイヤの巨木の小道です。 　冬に葉を落とした枝に春先の新芽が出るころの力強さ、真夏の暑さにも負けない濃い緑の堂々たる姿も大好きです。　（７１歳/男性）
岸和田市景観審議会における講評 ■　既にこころに残る樹木として景観資源に指定されたメタセコイヤは、蜻蛉（とんぼ）池公園にあって春夏には緑陰を秋には鮮やかな紅葉を、そして冬には落葉した幹枝が空に向かって伸びる樹形をくっきりと表わし、その雄大な木々を縫うように設置された園路を進むと応募写真からも伺えるように大池へと続いており、訪れる多くの方々を魅了する景観が形成されている。

指定物件５	久米田池遊歩道

応募者によるこころに残るエピソード

■ 朝、久米田池の方に行ったら、いい風景があるかなと思い出掛けました。
昔に比べて久米田池もすごくきれいになったなぁと思いました。
前に池に浮かぶ建物を友達がムーミン塔といっていました。
おもしろかったので写真に撮らせてもらいました。　（４１歳/男性）

■ 久米田池の遊歩道の桜の花が咲いている時も、散り敷いている時も美しく花びらを踏むのはもったいないと思いながら朝の散歩や撮影を楽しんでいました。
（７３歳/女性）

■ 府下最大級のため池である久米田池は四季折々の絶景を演出し、池を取り巻くこの道は春の桜、夏まつり、行基参りに続く紅葉、そして時折出会える冬の雪みちと見る人に楽しみを与えてくれます。
また、普段からもここへくると野鳥、日の出や夕日が沈んでいく情景との出会いなどさまざまな味わいを与えてくれています。　（７５歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■ 平成 27 年 10 月に国際かんがい排水委員会により「世界かんがい施設遺産」に指定され改めて歴史的価値が評価された雄大な久米田池（府史跡名勝）は、桜並木や久米田寺（府史跡）などの自然に恵まれた文化的な価値の高い景観を有している。
また、周囲の整備された久米田池遊歩道は、桜祭りや秋祭りの時期をはじめ、ウォーキングやジョギングを楽しむ多くの市民に利用され、まちかど審査でも第１位に輝き、親しまれる景観資源として改めて評価する。

みち景観（第２回）No.16

指定物件６	春木川遊歩道（兵主神社横）

応募者によるこころに残るエピソード

■　この遊歩道は中央公園をウォーキングした帰りに通る道です。

横には兵主（ひょうす）神社があり、時々ですが家族の健康をお願いにお参りします。

（７２歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■　国の重要文化財である兵主（ひょうす）神社の横を流れる春木川、その両岸に遊歩道が整備され、神社社叢と擬木柵が施された春木川の間を縫うように続き、そのすぐ先には緑豊かな中央公園が広がっている。

岸和田市景観計画で水と緑の景観軸に位置づけられ、インターロッキング舗装が施されたこの水辺の遊歩道は、エピソードにもありますように中央公園へ散策に訪れる人々を誘う健康ロードとしても利用されている。

みち景観（第２回）No.19

指定物件７　　阿間河滝の阿弥陀寺への参道
応募者によるこころに残るエピソード ■　古い町並みの残る山手の街・阿間河滝（あまかだき）地区。 　その町並みでも街道筋から阿弥陀寺へ抜ける参道は坂道と石垣、古い板壁の建物がコントラストを成して、このエリアを散策する時の１つのハイライトです。 （５２歳/男性）
岸和田市景観審議会における講評 ■　道の沿道を焼杉板の建物壁面と２～３ｍの石垣に支えられた瓦葺の漆喰塀の間を縫う歴史的な情緒あふれる阿弥陀寺への参道は、応募者によるこころに残るエピソードにもありますように古い家並みの残る阿間河滝（あまかだき）町にあり、ここを訪れる人々の興味を引く景観が映し出されている。

みち景観（第２回）No.21

指定物件８	南町のみち（紀州街道）

応募者によるこころに残るエピソード

■　天性寺（蛸地蔵）参道や丸型ポストのある南町の「みち」です。お隣の本町で生まれ育った私には、このあたりも子供のころの遊び場でした。最近ではだんじり祭りのときに訪れるくらいとなってしまいましたが、今でもここに立つと小さな自転車でこの道を何度も往復したことや、天性寺にお参りされている方々の様子を不思議さと憧れの目で眺めていたことなどを懐かしく思い出します。ここは民家の佇まいや石灯籠、ポストだけではなく、道路や電柱、電線なども含め、私が「昭和」を強く感じる「みち」でもあります。

（６４歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■　旧岸和田町の一部で、岸和田城下の一番南に位置することに由来する南町にあって商業の中心地として栄えた紀州街道には、蛸地蔵伝説を今に語り継ぐ天性寺参道の石灯籠やつし二階、出格子のある町家型住宅も散見され、岸和田の歴史・文化を今に伝えるみちとなっている。

みち景観（第２回）No.29

指定物件９	流木墓園桜並木みち

応募者によるこころに残るエピソード

■　流木（ながれぎ）墓園の桜を見て主人と蕾が固いとか満開の時がいいとか話しながら歩きました。

しかし今では想い出の道、今年も変わらず美しく咲いていると一人で花を見て通ります。

花の時季はとても慰められる道です。　（７３歳/女性）

岸和田市景観審議会における講評

■　既にこころに残る樹木として景観資源に指定された流木（ながれぎ）墓園の桜並木は、春には満開の桜のトンネルがカメラを持った多くの人々を楽しませている。

また、今回の応募者のように墓参りに訪れる人々の故人との思い出や家族で行楽に訪れた時の記憶など様々な思いの詰まったこの桜並木みちはこころに残るみち景観資源としても改めて評価したい。

みち景観（第２回）No.39

指定物件 10	牛滝街道（積川町）

応募者によるこころに残るエピソード

■　岸和田に自然豊かで静かな場所があるとは知りませんでした。
新しい岸和田のイメージができて、岸和田のことをもっと知りたいと思えた一枚です。
（２３歳/男性）

■　日差しが強く厳しい暑さの日でしたが、水路と日影が続く気持ちの良い道でとても涼しく歩くことができました。
趣のある建物と塀とが一層みちの雰囲気をより良いものにしているなと感じました。
天気の良い日だったのもあり、どこを撮っても絵になるような道だと感じました。
（２１歳/女性）

岸和田市景観審議会における講評

■　歴史の道・牛滝街道沿いの積川（つがわ）町集落のなかに旧造り酒屋の酒蔵や主屋が建ち並ぶ情緒あふれる閑静なまち並みそして脇を流れる水路や土壁の塀が、より一層の風情を増しており、とても魅力的な景観を形成している。

みち景観（第２回）No.41

指定物件 11	福田町のまちなみ

応募者によるこころに残るエピソード

■　短い街並み街道だが、私の心を揺さぶった古民家の街並みである。
道の両側に建ち並ぶ町家は瓦葺の屋根で石垣造りの地盤に漆喰の塀壁、蔵造り、木製の引き戸壁心地よい素朴なまち、城下町の田舎暮らしの良さが、心と目にしのんでくる、このまちの歴史・文化・くらしに触れてみたくなる轟川の宝町と感じられた。

（７５歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■　福田町の集落には石垣積みの上に築かれた塀や焼杉板や漆喰を施した門長屋など古い伝統的な様式の家屋が多数受け継がれており、歴史街道を思わせるような趣のある坂道の景観が形成されている。

みち景観（第２回）No.50

指定物件 12	牛滝いよやかの郷散策道

応募者によるこころに残るエピソード

■　春は桜、夏は木陰の清涼、秋は紅葉そして冬の雪景色と牛滝の四季は我々に自然の美を満喫させてくれます。その美を手軽に楽しませてくれるいよやかの郷の横を流れる牛滝川沿いの散策道があります。

　ここで四季の花、彩、そして香りに酔いしれて１日を過ごしたり、冬の雪景色を楽しんだ際は美人の湯とも言われるいよやかの郷温泉でほっこりと温まることで豊かな心地にさせてくれます。　（７５歳/男性）

岸和田市景観審議会における講評

■　国の重要文化財である大威徳寺多宝塔のすぐ横の滝から流れ出す牛滝川最上流部にあたる水と緑豊かな渓流の「ふるさと砂防事業」により川沿いに散策路が整備されている。

　右岸にはスギなどが繁茂する山の風景があり、左岸には桜や紅葉をはじめ四季の移ろいを感じさせる樹木に囲まれた「いよやかの郷」の温浴施設が隣接している。

また、ここから臨む風景や鳥の鳴き声そしてエピソードにある温浴施設など視覚だけでなく、聴覚や知覚にもやさしく働きかける癒しが体感できる景観が繰り広げられている。